

## 令和4年度第2回逗子市食育推進懇話会 概要

日 時 令和4年10月21日（金）15時00分から16時30分

場 所 逗子市役所5階 第2会議室

出席者 ◎佐野喜子（アドバイザー）、鈴木洋子、堀川ノブエ、近藤千賀、横地みどり、森荘一、  
内村力也、大竹清司、森谷紀子、村上知子、圓谷真理子

欠席者 渡邊千夏、吉川裕美、関忠子、川畑明日香

代理出席 桜井雅子

傍聴者 なし

事務局 青山係長、奥戸、伊藤

### 議事概要

#### 1 開会

資料確認を行った。

#### 2 議題

（新）逗子市健康増進・食育推進計画（以下、新計画という。）の方針等について

##### （1）食育状況アンケート結果報告

令和4年5月に実施した市民調査「逗子市健康・食育状況アンケート」における食育部門の集計結果について、「逗子市民の食生活等の実態に関する研究事業委託」の委託先である神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科の駿藤准教授が報告を行った。

##### （2）新しい健康・食育推進計画について

###### ア 事務局の説明・提案

事務局より、現在策定している新計画の素案について説明を行った。また、素案における「世代別目指す姿」や「具体的な取組み」について、意見交換を実施するよう提案した。

###### イ メンバーからの意見

事務局からの提案に対し、メンバーから次のとおり意見があった。

・目標については、具体的な取組みを含め、世代に合わせた良い目標がたくさん書かれているので、実行出来たら良い計画になると思う。思春期と壮年期については、目標に対してどう取組むかが一

番難しい時期だと思う。どういった方向性で形を出していくのか、家庭でも難しい時期なので、社会的にも難しいのではないか。ただ、非常に大切な時期でもあるので、上手に仕組みが作っていければよいと思う。

- ・乳幼児期の「食事を楽しもう」の表現は如何か。乳幼児期は食の体験を増やす、食が楽しいことだという経験を増やすという意味か。主体が親なのか本人なのか分かりにくいので明確にするとよい。学童期は給食の果たす役割が大きいと意見があった。

- ・青年期に「ゆっくりよく噛もう」がピンとこない。この時期は、自分の食生活への興味を持つような内容がいいのではないか。生活習慣病予防が入るような表現がいいのではないか。

- ・壮年期の減塩はいいと思うが、薄味の弁当や総菜の販売は難しいように思う。薄味のものもあり、選択が広がるような表記だといいいのではないか。

- ・高齢期の低栄養について、アンケートに挙がった一人暮らしで食事に困っているような方に対しての取組みがあるとよい。

- ・ライフスタイルが多様化し、食の考え方も多様化していることを鑑みると、全体を通してぼんやりした目標が多く、誰の心にも刺さらないように思う。もう少しターゲットを絞ってもいいのではないか。

- ・乳幼児期や学童期では、金銭的に余裕のない層や不登校など、アンケートには反映されないが、一番ケアしなければならない方々に対しての取組みがあるとよい。

- ・青年期や壮年期は、すでに自己決定している世代なので啓発は困難だと思うが、妊娠をきっかけに食を見直す女性が多いので、知識が得られるものがあるとよい。子どもの離乳食だけでなく、自分自身や家族の食生活を見直すきっかけとしたい。

- ・高齢期について、逗子は高齢者の割合や介護認定率も高いと思うので、どうケアをしていくか具体的に記載してほしい。民生委員等の地域の担い手の人手不足も課題だと思う。

## ウ アドバイザー講評

発表された意見等について、アドバイザーから次のとおり講評があった。

- ・「食事を楽しもう」はだれに言っているのか。「将来食を楽しめるよう子どもの環境を整えよう」くらい表現を絞った方がよい。誰に対するメッセージか明確にした方がいい。

- ・素案の「現状」については、調査結果の説明や引用に違和感はない。

- ・「具体的な取組み」と書いてあるが具体的でない。「具体的な取組み」に対する目標なので、表現の整理をした方がいい。

- ・順番に書いてあると、人は上から優先順位が高いと捉える。例えば乳幼児期では、まず「食事の

リズムを整えるために規則正しい生活を心がける」が1番であり、その次に「心穏やかで安心できる食卓を心がける」、3番目に「様々な食品に親しみ、五感を使って食への興味を広げる」、4番目に「月齢・年齢にあった食形態・薄味で食べる」と続き、5番目で「食事づくりやその準備を積極的に手伝う」となるのではないかと。優しく呼びかける言葉で中身はとてもよくわかるが、時系列を大切にしてほしい。人の考えの流れで組み立てた方がよい。

・資料3の体系図を見ると、例えば「適正体重の維持」は壮年期の後半から矢印からスタートする形になっているが、40歳から特定健診が始まるが、メタボリックシンドロームに該当する人は30代から該当していることが多い。「適正体重の維持」は世代によってそれぞれの意味があるため、矢印はもっと前の世代からスタートさせた方がいい。市民に高血圧が多いのかもしれないが、減塩の前にメタボリックシンドロームに対する対策も栄養・食生活の中に忘れずに入れるべきだと思う。

・今回の情報量に対して15分で意見を求めるのは性急な感がある。会の終了後も意見を受け付けるよう対応をお願いしたい。

#### エ 事務局からの連絡

発表された意見へ感謝し、追加の意見があれば11月4日（金）まで募る旨を伝えた。

#### オ 基本理念について

現在検討されている新計画の基本理念案を説明し、11月4日（金）まで意見を募る旨を伝えた。

### 3 その他

事務局より、食育講演会の案内があった。

### 4 閉会

以上